

展示会、商談会で商品の告知に努め
シンガポールや台湾で販売されるように

株式会社北山物産

- ▶ 支援内容
- ✓ 地域資源ファンド事業
 - ✓ 海外バイヤー招へい商談会
 - ✓ 小さな元気企業応援事業



黒部の名水で12時間かけて水出しされるコーヒー「水の時計」。きわめて香りが高い。地域資源ファンド事業に採択されて、開発が進められた。



立山山麓に降り積もった雪は、およそ100年の時を経て地下水として湧き出ているが、その水を使ってコーヒー豆を浸水している。

「黒部市のある喫茶店が、独自のコーヒー関連の商品を海外に輸出している」。そう聞くと、「そんなお店が黒部に!？」と驚く方も多いだろう。店の名前は「水の時計」。運営しているのは(株)北山物産だ。

その北山社長が「独自のコーヒーを首都圏や海外でも販売しよう」と志したのは、2015年のこと。地域資源ファンド事業に採択されたのを機に商品開発を進め、黒部の名水で10時間以上かけて抽出した水出しコーヒー(ダッチコーヒー)と、そのコーヒーをベースにしたカフェオレからつくった羊羹やコーヒー豆をチョコレートで包んだスイーツなどを開発し、翌年から首都圏での販売を試みるとともに、香港への輸出の可能性をさぐるために視察に赴いた。

アジアの国々の バイヤーと積極的に

「中国や韓国ではコーヒーを楽しむ方が増えつつあり、喫茶店も徐々に増えています。香港はイギリスの文化を中国本土や韓国よりは受けていますから、まずは香港で試してみようと思いました」(北山社長)

視察から帰った氏は、県の支援を受けて「香港国際食品見本市フードエキスポ2016」に出展。日本に支店を持つ香港のバイヤーが同社のコーヒーに関心を寄せ、テスト販売を通じて高級な食品スーパーで販売されるようになった。

初めての展示会出展で、顧客の開拓までこぎ着けることはなかなかない。これをチャンスと見た北山社長、今度は富山・岐阜・長野の各県が協力して行っている海外バイヤー招へい商談会(2016年度)に参加。シンガポール、香港、ベトナム、マレーシアなど4カ国(地域)5社のバイヤーと商談を行い、シンガポールのバイヤーとは後にデパートでのテスト販売を行うまでに。北山社長は、国やその機関、あるいは金融機関などが行う展示会にも積極的に参加し、海外バイヤーとの商談を繰り返してきたが、それらの経験を踏まえて以下のように語った。

「公的な支援を受けての海外の展示会出展や海外バイヤーとの商談会で都合がよいのは、通訳の心配をしなくてよいことです。通訳を介して、取引条件などを最初から正確に把握できます。そこで私がポイントにしているのは、そのバイヤーに日本での活動拠点があるかどうか。活動拠点があれば、貿易事務をバイヤー側に任せることも可能です。私たちは限られた人材で業務をまかなっていますから、中小企業にはそういう点も大事な確認ポイントです」

知財保護も大切なポイント

独自に開発したコーヒー関連の商品の販路拡大を図ってきた同社。展示会等に数多く出展すると、メディアに取り上げられることも増えてくる。すると同業者や食品関係の企業の目にとまることも多くなる。「がんばっているな」と好意的、中立的に見られる分には問題ないのだが、「うちもあのやり方で……」と同じようなことを取り組まれたのでは、開発に要した努力が水泡に帰することになる。そこで同社では、小さな元気企業応援事業(2017年度)の採択を受け、商標や特許などの登録・申請を通じて自社商品の保護を図り、その

上で販路開拓に取り組むようにした。

「展示会や商談会に出ると、いろんな情報も入ってきます。中には当社のやり方を真似しているのではないかとと思われることも聞き、まずは知財保護をきちんとしようと思いました」(北山社長)

その上で、金沢や大阪、沖縄で開催された商談会に参加した他、香港、シンガポール、台湾などの展示会にも出展。シンガポールの展示会は富山県が借りたブースに県内企業と共同で出展する形にしたものだが、そこで出会ったバイヤーと後に沖縄で再度商談して、輸出が決まったそうだ。

「このバイヤーと話してわかったのは、商談が決まるにはタイミングがあるということです。シンガポールの展示会で話した時、バイヤーは当社商品に強い関心を持ったのですが、売り場の確保にメドが立たなかったようです。それが沖縄で再会した時には、スーパーの商品の入れ替えが決まったらしく、そのタイミングで当社商品の採用が改めて検討されたようです」と北山社長は語り、台湾のスーパーでも販売されるようになったことを明かした上で、「さらなる海外展開を図りたい」と抱負を語った。



「水の時計」をベースにカフェオレをつくり、それを羊羹にした「水の時計珈琲羊羹」。



シンガポールで開催されたFOOD JAPAN(2018年10月)に出展した際は、プレゼンテーションの機会もあった。



2016年10月に行われた富山・岐阜・長野三県連携海外バイヤー招へい商談会の様子。アジアのバイヤーに水出しコーヒーを勧める北山社長。



PROFILE

所在地 黒部市荻生2671-3
 代表者 北山 晃
 資本金 300万円
 従業員 4名
 事業 水出しコーヒーの製造販売、
 各種コーヒー豆の焙煎販売、
 カフェの運営
 TEL 0765-57-3251
 FAX 0765-57-3251
 URL <http://www.mizunotokei.com/>



北山晃社長